

今回は、本田健さんの「落ち込んだときに勇気が出る 49 の言葉」から紹介します。

これまでの人生をふりかえって、すべての出来事に納得している人はごく少数です。どちらかという、「??」という感じで過去を振り返ることのほうが多いかもしれません。それは、ポジティブな意味でもネガティブな意味でも同じです。「なぜ、うまくいかなかったのか?」「どうしてあのタイミングで、助けてもらったのだろう?」「何も努力していないのに、うまくいったのはどうして?」そういった、疑問がいっぱい出てくるものです。けれども、そのほとんどの答えは、見つからないことが多いのです。

どちらかという、意味がわかる、納得できることよりも、「なぜかよくわからない」ことのほうが多いのです。プラスのことも、マイナスのことも、数カ月、1 年、場合によっては、2、3 年、あるいは 10 年以上経って、ハッと理解できることがあります。知り合いで、父親が事業に失敗して、3 億円の借金を引き継いだ人がいました。彼は、相続を放棄することもできましたが、父親が作った借金だからといって、自分が一生かけて払うと決めました。その後、勤めていた会社を辞めて、父親の会社を経営することになりましたが、まったくの素人からはじめたので相当苦労したようです。でも、命がけでやったので、その借金をなんとか 10 年で完済することができました。その後、同じ勢いで会社経営を続けたので、返した借金のぶんが今度はそのまま貯まっていき、たった数年で資産家になりました。一時は、借金を残した父を恨んだこともありましたが、10 数年後、資産家になったことを考えると、今は感謝しかないと言います。「父は借金を残したのではありません。情熱と本気と稼ぐ力を残してくれたんです」とさわやかに語る彼の顔は輝いていました。私たちは、次が見えないとき、「これって、意味があるんだろうか?」と考えがちです。そのときはわからないこともたくさんありますが、時が来れば、自ずとその意味がはっきりすることはけっこうあります。人生をもっと信頼することができれば、細かなことで悩む機会は減ります。今の自分にはわからないけど、「今はこれがベストなんだ」とさえわかっていたらいいのです。あなたも、「これって、どういう意味があるんだろう?」と考えはじめたときは、よくわからないけど、「そのうちわかる」と気軽にとらえ直しましょう。そうすれば、それが感謝とともにわかる時が、やってきます。《すべてをいまずぐに知ろうとは無理なこと。雪が解けてくれば見えてくる》（ゲーテ）

生まれ変わりの理論に、「自分の人生の脚本は、生まれる前にすべて自分が書いた」というものがあります。どんな両親のもとに生まれるか、どんな国や地方、家庭環境に生まれるかという、生まれる時の脚本。どんな学校に入り、どういうところに就職するとか、転職するとかいう、学校や仕事の脚本。誰と結婚してどんな子供や家族を持つか、あるいは結婚しないという、結婚や家族の脚本。どんな病気をするか、どんなトラブルに出会うか、困難に出会うかという、人生の脚本。それらの脚本はすべて、自分の魂を磨くため、人格を向上させるために自らが設定したハードル。学びのための砥石（といし）と言ってもいい。自分の身に起こるあらゆる出来事の意味…。いつか必ず、その意味がわかる時がくる。

Q1: 生まれ変わりの理論では、自分の人生の脚本は誰が書いたと言っていますか?

A1: ()